

本手引き案で扱う用語

あ	
遠景	景観分析で用いられる用語で、視距離（視点から対象までの距離）が遠い景観を指す。遠景となる視距離に関して具体的な数値の定めはないが、一般的には樹木一本一本が認識不可能な景観（概ね視距離 2.1～2.8km 以上）を遠景と呼ぶ場合が多い。
屋外広告物	営利・非営利を問わず、常時又は一定の期間継続して屋外で公衆に表示される看板、立看板、はり紙、はり札、広告板、広告塔、建物の壁面看板などの広告物のこと。
か	
興味対象	眺望の主題を成し、眺望の主たる視対象となる地物。
興味対象エリア	眺望の主題を成し、眺望の主たる視対象となる地物が位置しているエリア（範囲）。
近景	景観分析で用いられる用語で、視距離（視点から対象までの距離）が近い景観を指す。近景となる視距離に関して具体的な数値の定めはないが、一般的には樹木一本一本の葉や枝、幹などが認識可能な景観（概ね視距離 340～460m 以下）を近景と呼ぶ場合が多い。
景観	人間をとりまく環境の眺め。
形態・意匠	建築物・工作物等の外観の特徴をあらわす形状やデザインのこと。
建築物	土地に定着する人工物のうち、屋根及び柱若しくは壁を有するものこと。
工作物	門・塀・電柱・建物・トンネル・溝渠など、地上または地中に人工的に作られて設置されたものこと。
さ	
視点	景観を眺める人の位置。視点は景観の特性を規定する最も基本的な要因であり、景観分析においては視点と対象との位置関係が極めて重要となる。
視点場	視点が位置する場所、視点近傍の空間のこと。景観を良好なものにするためには、視対象のコントロールのみならず、視点周辺の植栽や施設整備を行なうなど、視点場を空間として整えることも重要となる。
借景	公園緑地の園外の山や樹木、水面、建築物等の地物への眺めを、園内の風景に取り込むことで、前景の公園緑地と背景となる借景とを一体化させて見せる手法。わが国の造園学研究の泰斗・上原敬二はこの借景について、「我国の庭造法が特に借景を以て世界造園史上に特筆されて居る」と述べており、日本庭園を特徴づける重要な造景手法の一つである。
水平景	視線の延長方向が概ね水平である景観。
水平見込角	対象の水平方向の見えの大きさを表わす角度（対象の張る視角）。
前景	景観の主題となる地物（主対象／興味対象）の手前（前面）に現れる地物等の景観。前景に興味対象の眺めを遮る要素がある場合、その眺望が大きく阻害されることになるため、眺望保全においては前景を良好に保つことも重要となる。

た	
眺望（眺望景観）	眺め、見晴らしのこと。
は	
背景	景観の主題となる地物（主対象／興味対象）の奥に現れる地物等の景観。
パノラマ（景）	水平方向に視野の広がりがある眺望。
ビスタ（景）	例えば、並木の軸方向への眺望など、方向性が強く意識される眺望。
俯角	対象を見下げる場合の視線の水平に対する角度。既往の研究によれば、対象が水面のように平面的な場合には、俯角 10 度近傍が見やすい領域であるといわれている。また俯角 8～10 度付近に最も視線が集中するともいわれており、この領域を「視線の集中領域（中心領域）」と呼ぶ場合もある。
ま	
見切り要素	視対象の手前にあって、対象への見えの一部を遮る（見切る）要素。公園緑地からの眺望においては、視点場にある低木植栽や、公園緑地外縁の高木植栽等が、園内からの眺望の「見切り要素」としての役割を担うことが多い。